



日頃の練習の成果を発揮

庄原市中学校駅伝競走大会・10/11

No.7

道後山高原クロカンパークで「男子第66回・女子第44回庄原市中学校駅伝競走大会」が開催され、市内中学校の中から男子6チーム、女子3チーム、ロードレースの部から男女合わせて22人が出場しました。

当日は、仲間からの「がんばれ!」「諦めるな!」といった熱い声援が走者の背中を後押しし、どのチームも一丸となって、最後まで走りきりました。

この大会は、中国中学校駅伝競走大会予選会も兼ねており、女子は庄原中、口和中が、男子は庄原中、東城中が代表校に選出。11月16日に行われた中国中学校駅伝競走大会でも、東広島の地で、庄原の代表校として堂々と走りました。



▲男子6チームが一斉にスタート

若者が住み続けたい将来像を描く

高野・未来ビジョンワークショップ・10/20

No.9

高野地域づくり未来塾で、9月19日、10月7日、20日の延べ3回、高野・未来ビジョンワークショップが開催され、高野地域に在住および関わりのある20~40代の若者延べ23人が参加しました。

これは、人口減少が進む中、若者や子育て世代に選ばれる地域をつくるため、実施されたものです。

まちづくりデザインに知見のある谷田恭平さん(株)と内藤真也さん(JR西日本)をファシリテーターに招き、暮らし、公共交通、働く場、買い物をテーマに課題を洗い出し、解決策など未来ビジョンを描きました。

参加者は「このビジョンが本当に実現できたら、自信を持って子どもたちに帰って来いと言える。ぜひ、実現に向けがんばりたい」と話しました。



▲ワークショップに取り組む参加者

ピンクリボン活動を推進!

ふれあい東城まつり・10/19

No.6

プレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 東城実行委員会が、ふれあい東城祭りで、乳がん検診の受診と乳がん自己検診の重要性について啓発活動を行いました。

乳がんで悲しむ人を減らすための企画「メッセージを伝えよう」では、感謝の言葉や「明日検診を受けます」「他人事ではなく自分事として!」など、前向きなメッセージがたくさん寄せられました。

同実行委員会会長の近藤久子さんは「活動を継続することでピンクリボンの意味を理解してもらえるようになった。若い世代の乳がん罹患率も高いため、今後も市内全域で啓発活動が必要」と話しました。



▲実行委員会メンバーから説明を聞く来場者

学祭に市のブースも出展

県立広島大学庄原キャンパス大学祭・10/25~26

No.8

県立広島大学庄原キャンパスで、2日間に渡り第36回白楊祭が開催されました。

会場のメインステージでは、軽音部やアーティストの演奏、お笑いライブなどが行われ、会場を大いに盛り上げました。

25日には、市が企画したブースも出展し、大学関係者を対象にジビエ料理を無料提供。また、「庄原ファンクラブ」の加入者を対象にした米すくいイベントブースや、市の特産品が抽選で当たるデジタルスタンプラリーイベントなども行われました。

ブースを訪れた学生は「庄原市のジビエ料理を堪能し、楽しみながら市の魅力を知ることができた」と話しました。



▲ブース前にできた学生の列

▲学生にジビエ料理を振る舞う

火の用心 マッチ一本火事のもと

幼年消防クラブ合同防火パレード・10/24

No.3

西城町内で、秋の全国火災予防運動の一環として、幼年消防クラブ合同防火パレードが開催されました。

この行事は、地域住民の防火・防災意識の高揚を図ることを目的に、西城保育所おひさま幼年消防クラブ、庄原消防署西城出張所、庄原市消防団西城方面隊、庄原警察署、市役所西城支所が合同で毎年実施しているもので、本年で38回目を迎えます。

当日は、西城保育所の園児たちが元気いっぱいに「火の用心 マッチ一本火事のもと」と唱和しながら拍子木を鳴らし、町内をパレードしました。園児たちの可愛らしい呼びかけに、地域の皆さんも笑顔で応え、防火への意識を新たにしていました。



▲パレード参加者で記念撮影

地域で盛り上げる秋祭り

第30回比和やまびこ祭・10/19

No.5

比和総合運動公園で、第30回比和やまびこ祭が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

当日は、大正琴や比和小児童による合唱、比和中生徒による比和牛供養田植の演技、地域対抗でのフライングディスク競技などが行われ、会場を盛り上げました。また、地域の子どもたちはロードレースに参加し、大勢の観客が応援する中、一生懸命にコースを駆け抜けっていました。

また、成田匠さん率いるバイクチームによるトライアルスパーデモの華麗な技の数々や、塩乃華織さんによるスペシャルショーの華やかな歌声が来場者を魅了し、見どころあふれる祭りとなりました。

実行委員長の若林隆志さんは「天候にも恵まれ、みんなの協力のおかげで良い祭りとなった」と話しました。



▲比和中生徒による比和牛供養田植の演技

まちなかを彩る伝統の行列

お通り・11/2

No.2

東城小学校をメイン会場に「お通り」が開催され、約1万8千人が来場しました。

「お通り」は江戸時代から続く伝統行事で、東城五品獄城主の長尾隼人が関ヶ原の戦いの勝利を祝って、神社の祭り行列に武者行列を加えたことが始まりとされています。

ササンカで飾りつけた矢よけの武具「母衣」をはじめ、大名、武者、華童子など総勢約100人からなる行列が市街地を練り歩き、沿道は市内外から訪れたカメラマンなど多くの来場者でにぎわいました。

来場者は「母衣が町並みを歩く姿はとても華やかで良かった」と話しました。



▲市街地を通り母衣の行列

共に考える庄原市の未来

県立広島大学庄原キャンパス フィールド科学・11/7

No.4

県立広島大学庄原キャンパスで1年生対象の「フィールド科学」の講義が開催されました。

この講義は全8回開催され、市や議会、商工会議所、自治振興区などの関係者が外部講師となり、学生に地域の現状や課題を学ぶ機会を提供するものです。

最終回となる今回の授業は、学生がグループに分かれ、八谷市長に公共交通の改善や若者の遊び場不足の解消、SNSを活用した地域の魅力発信など、市の課題解決のための多様な提案を行いました。

市長は、学生が市の未来を主体的に考える姿に感銘を受け、参加した学生は「市長に直接提案することができるとても貴重な経験だった。自分たちの意見が少しでも課題解決につながってほしい」と話しました。



▲市長のあいさつに耳を傾ける県大生